

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992300079		
法人名	社会福祉法人 敬和会		
事業所名	グループホーム 元気 (はつらつ棟)		
所在地	栃木県下都賀郡壬生町壬生甲2224-1		
自己評価作成日	平成25年 2月 28日	評価結果市町村受理日	平成25年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々それぞれの人格を尊重しながら、日々いきいきと生活していただけるように、また一人ひとりが安らいだ気持ちを持ち、入居者同士が仲良く過ごしていけるよう支援している。地域の方々からの温かい協力や支援を受け、様々なボランティア活動(ちぎり絵・フラダンス・カラオケ・傾聴など)を行っていただいている。施設内でも、毎月の行事(誕生会・手作りおやつ・お好みメニュー)や、それぞれの季節に応じた様々な行事(新年会・初詣・節分・花見・七夕・花火・運動会・収穫祭・クリスマス会)を行い、入居者の方々に楽しんでいただいている。運営推進会議を活用して、地域の行事や防災活動にも積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに住む医師である理事長の地域に貢献するという考えのもと、広い交流室を地域の種々の会合に開放し、地域貢献している。特に認知症の講習会や栄養講習会など介護に関する会合はもちろん、趣味やボランティアの会合等にも積極的に開放している。そうした会合等に当ホームの利用者も参加し、地域との交流も行われている。防災訓練にも地域の方々の参加があり、自治会行事への参加など、利用者の地域の方との馴染みの関係の継続に努めている。また、当法人が運営する他市での特別養護老人ホームやグループホームとの情報交換や、同町内の他のグループホームとも情報交換し、サービス支援資質の向上に努めている。職員間も自由に意見など出し合えるような環境作りにも努めており、理念である「人と人、心と心、その人らしい生活・人生が送れるような支援」の実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活、人生を送れるよう支援していく事を、理念に掲げている。日々の業務や各種会議において、理念の共有・実践に取り組んでいる。また毎朝の申し送り時に、理念を唱和している。	理念は職員全員で検討して作成した。各ユニット棟や事務室の中に掲げると共に、毎朝の申し送り時に唱和すると共に、日常の業務が理念に照らして適当か各種会議で確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、運営推進会議を通じて、地域との交流を計っている。また、共同して防災活動を行っている。	自治会に加入し、自治会長からの情報を得たり運営推進会議にも自治会役員に参加してもらっている。また、公民館花見祭りに招待され交流を図っている。地域の方と一緒に防災活動やホーム交流室の開放等により積極的に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室を活用し、地域の方の認知症への理解に活かしている。 また様々なボランティアとの交流により、認知症の人への支援に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、管理運営、入居者の処遇状況、主な行事の実施状況などを報告し、意見をもらい、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、メンバーは自治会役員・民生委員・南地区と北地区2つの地域包括支援センター・町職員の参加のもと、運営状況や利用者状況、行事などを報告し、意見等を頂いている。利用者、家族に声かけしているが参加にいたっていない。	利用者、家族の意見や要望は、運営に活かされるべき重要な情報であることから、特に家族の思いや日常の様子など把握し会議への呼びかけに工夫し、家族の運営推進会議への参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員が運営推進会議に参加しており、ホームの運営状況や実情、入居者の日常生活等も把握してもらっているため、細部に渡り相談しやすく、担当者とは連絡を密に取り合い、協力関係を築いている。	運営推進会議に町の担当職員が参加しており、ホームの運営状況など把握してもらい、意見や細部の事についても相談しているので、協力関係が築かれている。また、ホームの交流室を町(地域内)の研修の場として提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議において学習会を行ない、禁止となる具体的な行為を理解し、拘束のないケアの実践に努めている。	月1回の職員会議で身体拘束の学習会を行い、職員が発表者になり理解を深めている。特に言葉による拘束等に気を配り、職員間で注意しあっている。玄関は外から自動で中からはタッチボタンにより開くようになっており、門扉の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はない。日頃から声かけには注意を払い、穏やかに笑顔で接している。会議等において定期的に話し合う場を設け、防止に努めている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な時には活用できるようにしている。また実際に活用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時、十分な話し合い、説明をし、理解、納得のもと同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談受付窓口と市高齢福祉課の連絡先を明記している。家族の訪問時には「何かありませんか」等の声がけをし、要望などが言えるような雰囲気作りを心掛けている。また面会簿に意見欄を設けて、意見・要望を聞いたりしている。	利用者からは日常的なかかわりの中で意見・要望を把握し、家族からは面会簿に意見欄を設けているほか、来所時に積極的に話しかけ、意見要望を伺っている。意見要望は実現出来るものから運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種委員会、スタッフ会議、職員会議等により職員の意見や提案を反映させている。また、意見や提案を言いやすい環境作りをしている。	職員からの意見や提案が言いやすい環境作りに努め、各種委員会(生活・レクリエーション・園芸等)やスタッフ会議(責任者)、職員会議等により意見や提案を受けて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者はスタッフ会議に出席し、職員と話し合う機会を持ち、勤務状況を把握している。全職員に目を配り、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や社協からの研修案内により、その都度参加を検討し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。研修報告書の内容は、回覧したり職員会議に発表の機会を設けるなどして、内容の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。各研修に参加した職員は、研修先で同業者との交流を持つ機会がある。その他、必要があれば地域の同業者との交流なども検討し実施している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族と共に来所して頂き面接を行い、困っていることなどをご本人自身から聴く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご本人と共に来所して頂き面接を行い、困っていることなどを聴く機会を設けている。また、在宅生活での様子なども伺い、ホームの生活での対応に活かせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族だけでなく担当の介護支援員からも情報提供をもらいながら、他のサービスについての説明を行い、支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな時でも入居者が主役となれるように徹し、今までの経験が活かせるような働きかけを行っている。また人生の先輩から教えて頂く事は多く、決して一方的な関係ではあり得ないと考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族より本人の嗜好や関心等を積極的に伺い、計画に反映させている。定期的に日常の様子や健康状態を伝え、情報の共有を図っている。また家族の協力が必要な時は、本人を共に支えあえるよう、本音で話し合えるような関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所を訪れたり、友人や親戚等が気軽に訪ねて頂けるようなホームの雰囲気作りに努めている。	友人や親戚、近所の方の来所があり、馴染みの場所への外出も家族の協力を得ながら、本人の希望を最大限汲み取り支援している。今まで利用していた理美容院への継続も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士の交流を大切にし、居室間の訪問等の支援をしたり、リビングや行事等での席順等も工夫している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業者等関係機関への情報提供を行ったり、本人・家族への相談助言が必要な場合は即実行できる体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で随時本人の希望を確認したり、困難な場合は家族からの情報や生活歴などを参考にし本人本位に検討している。	日常生活の中で、常に寄り合いながら会話を聞き取り思いの把握に努めている。特に個別に支援している時など、利用者個人の思いが表されることが多く、受け止めるよう努めている。困難な場合はできる限り家族からの情報を大切に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や入所してから随時、担当介護支援専門員や日々接している介護職員からの情報を本人・家族に確認し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や状態を職員が確認し、日々記録したり、申し送りに努めている。また、会議などで情報を交換し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意見を確認し、ケアマネジャー、担当職員が話し合いを行い、介護計画を作成している。 また3ヵ月毎にサービス担当者会議を開き、見直しを行なっている。	本人や家族の意向を踏まえ、職員会議録をもとにケアマネジャーと担当職員が話し合い、介護計画を作成している。サービス担当者会議を3ヶ月ごとに開催し、計画に反映すべき変化や要望の収集に努めている。また、問題が生じた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を個別記録に記入し、実践や計画の見直しに活かしている。 また早急に知ってもらいたい事は連絡帳を使用し、職員間での周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、できる範囲で事業所の機能を活かした支援を行っている。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、ボランティアや他の機関と協力し、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医の受診への継続を希望するかを伺い、定期的あるいは必要に応じた受診への連絡を行っている。特に希望がないときは、嘱託医を主治医とし、週1回、定期的に診療をおこなっている。	利用契約時にかかりつけ医の確認を行っている。また、法人の嘱託医に変更する方もおり週1回の往診を受けている。かかりつけ医への通院は家族や訪問介護事業所においており、身体状況について口頭等で伝えている。精神状況により担当職員はメモを持参して付き添いを行っている。	日々の状況を家族や訪問介護事業所へ口頭・メモで伝えているが、かかりつけ医からもより正確に伝達されるように連絡用紙等の工夫と共有を考え、適切な医療が受けられるよう期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設の特養やデイの看護職員に相談を行っている。又緊急時には応援を頼める体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師である理事長が週1回火曜日に回診に来る。かかりつけ医がある入居者については、家族と連携をしながら、服薬や症状変化の情報提供等適切な医療が受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ重度化した場合の対応等を説明、希望を聞き、実際に重度化した場合は早い段階から本人や家族、嘱託医と話し合い、方針を共有している。	契約時に本人・家族に重度化された場合の対応について説明をしている。本人・家族の希望があれば状態に応じ看取りを実施して行きたいと考えているが、嘱託医との話し合いをもとに共有した支援準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、事故発生時の対応を具体的に記載したマニュアルを全職員に配布している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は定期的に行っている。地域との協力体制については、消防署・自治会等に協力を要請し、協同して夜間想定避難訓練や消火器訓練などを行っている。また消防署員による講話も実施して頂いている。	避難訓練は年2回の夜間想定を含め、消防署・自治会の協力のもと定期的に行っている。近隣者を含め訓練が行われている。緊急通報機器は全員職員が使用でき、消火器使用訓練は近くの消防署に出向き指導を受けている。自治会長・民生委員を含め職員緊急連絡表が出来ている。備蓄も用意されている。	

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、馴染みの関係であっても丁寧な言葉遣いで対応し、常に敬意を持って接している。またボランティアや見学者に対しても守秘義務に関する説明や書面記入を行っている。	人格を尊重し目線を合わせ丁寧な言葉遣いをしている。呼び名は同じ名字の方が多く名前に「さん」付けで呼んでいる。ボランティア・見学者も多いが守秘義務について説明し、誓約書への記入により理解して貰っている。書類や薬・お金は事務所に保管施錠されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の態度や会話から本人のニーズを探り、思いや希望を受け止められるようなコミュニケーションを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の考えに立ち、職員は各行事やその他のレクリエーション等の参加の声かけを行うが、本人の希望を尊重し強制しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品など身の回り品を把握し必要に応じて補充している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みメニュー・手作りおやつ・行事食などを利用者と一緒に考え、作っている。またできる限り食事の準備や片づけを、個々人の能力に応じて職員と一緒に頑張って頂いている。	献立・食材は業者に委託しているが、月に1回お好みメニューにより買い物に出かけ作っている。職員一人が検食を兼ね会話をしながら一緒に食事を摂っている。また、殆どの利用者が準備や片付けを出来る範囲で生活習慣のように職員と一緒に頑張っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理を工夫したり本人の状態にあわせた食事を提供している。食事摂取表を作成し一日の摂取量を確認できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人は毎食後歯磨き、うがい、義歯の手入れを行い、職員は利用者の能力に応じて支援している。		

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄データ及び日常の観察を通して、排泄パターンを把握しており、定期的にトイレ誘導を行っている。	利用者の日々の状況や排泄パターンを把握している。羞恥心や不安の配慮を行い、個々のしぐさにより声かけ誘導支援を行っている。日中リハビリパンツを使用している方もいるが布パンツの方が多く自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を実施し、排泄チェックを行っている。また散歩や外出等適度な運動を促し、牛乳を毎日摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を確認し、限られた時間帯の中でも入居者の希望に合わせた時間に入れるよう配慮し、ゆったりと入浴できるように支援している。	浴室は広く個浴対応になっている。職員2人で月・水・金の午後毎回利用者の順番を変えて全員好みに応じた時間で支援をしている。困難な利用者にはもう1つのユニットが、火・木・土の入浴日になっており、お互いに利用しあい、毎日入浴可能な状況になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室の居室は、いつも休めるようベッドマークしており、清潔を心がけている。ソファーも用意しており、状況に応じて見守り、安全、安眠に休息して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつも目が通せるよう、利用者様のケース記録に服薬の処方箋をファイルしたり、確実に服薬できるよう内服完了まで見守りをおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味の理解に努め、外出や気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に買い物や外出に出かけている。家族との外出も支援している。また月に数回、ドライブにお誘いしている。	利用者の希望に応じ職員と一緒に近くのスーパーに買い物に出かけている。また、家族との外出も積極的に支援しているほか、回転寿司や道の駅での外食を楽しんだり、法人のリフト車を借りて月に数回ドライブに出かけている。天気の良い日にはホーム周りの散歩支援をしている。	

グループホーム元気

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理が難しい方には、必要に応じて好きな時に使用できることを理解して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった時は、随時電話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真、季節の花やポスター、入居者の手作りの作品などを飾って、生活感や季節感を取り入れている。また毎月の行事予定表を壁に貼り出している。	リビングは梁出し天井で開放感があり、天窓から光も十分に差し込んでいる。壁面には利用者全員で作成した季節感ある切り絵が飾られ、行事表や今日の献立が貼ってある。また、片隅にテレビやカラオケ・ゆったりと座れるソファが置かれるなど適温のリビングは寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブルを置き、自由に過ごして頂けるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた家具や生活用品を使用したり、写真やご自身の作品を飾ったりして頂き、個々人が居心地良く過ごせるよう支援している。	各部屋共に日差しがよく入り、部屋からも外に出られるようになっている。カーテン・洗面台・ベッド・布団は備え付けであるが、利用者には使い慣れたタンスや毛布・身の回りの生活用品を持ち込んでもらい、本人が撮影した写真や手作りの人形等を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。季節の衣類の交換は職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各場所に手すりや椅子を配置し、場合によっては家具などの移動を行い、安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。		